



トキの野生復帰に向けて

9月25日（木）に佐渡トキ保護センター野生復帰ステーションの近くの水田で、トキの放鳥が行われることになりました。トキが日本の空に羽ばたくのは、昭和56年に5羽の野生トキが全鳥捕獲されて以来、27年ぶりのことです。平成11年に中国より1つがいのトキの贈呈を受け、トキの人工繁殖に成功してから、現在、123羽のトキが飼育されています。このうち15羽が野生復帰ステーション順化ケージで、採餌、飛翔、天敵回避といった野生に戻るための訓練を続けてきました。今回は、この中から10羽程度を選んで放鳥されます。

トキが野生下に定着するためには、地域住民や行政機関等が連携してトキのエサ場の確保やねぐら、営巣木の保全などの自然環境の維持・再生に取り組むことが重要です。こうした自然再生の取り組みと放鳥を繰り返し、平成27年までに佐渡島小佐渡東部地域に60羽のトキが定着することを目指しています。今回の放鳥によって、トキ野生復帰元年ともいえるべき画期的な一歩を踏み出します。



「いきものみつけ」で地球温暖化しらべ

自然に恵まれ、生物多様性の豊かな日本。だからこそ、私たちは身近な自然が失われることへの危機感をあまり持たずにいるのかもしれませんが。一方で、地球温暖化問題の深刻な影響の一つとして、生物多様性が失われつつあることも指摘されています。環境省生物多様性センターでは、今年7月から2010年までの間、身近な自然を見つけ、温暖化の影響を調べる「いきものみつけ」というプロジェクトを展開しています。「いきものみつけ」は、日頃の暮らしの中で身近ないきものや自然現象を観察し、その調査報告をインターネットや携帯電話などで送るといったもの。観察対象は、秋はイチヨウやススキ、冬は初氷など、四季それぞれの12種類です。同時に、身近なところで感じた温暖化への意識アンケートも行っています。誰でも気軽に参加できるこの機会に、いつもは気づかない身近な自然に目を向けてみてはいかがでしょうか。詳しくは、HP <http://www.mikke.go.jp> をご覧ください。

イラストレーション/タニダリョーコ

エコアクション地球にいいことしてみよう!

皆さんは、「こどもエコクラブ」をご存じですか？環境省が応援する、子どもが誰でも参加できる環境活動クラブのことです。2人以上の仲間と、活動を支える1人以上の大人が集まれば、登録可能です。

「エコクラブには入っていないけど、何か気軽に参加できること、ないかな?」と思っている人に、朗報です。今年7月からこどもエコクラブのウェブサイト上で新しいプログラム「エコアクション」が始まったのです。これは、ウェブ上で参加登録して、ひとつのアクションを一定期間続けて実施し、その回数をウェブで報告していくというもの。もちろん、エコクラブ登録の有無にかかわらず、誰でも（1人でも）参加できます。

いま実施されているテーマは、「旬感!実感!大作戦」。季節ならではの「旬」な食材、地元でとれた食材を食べた数を記録・集計。その後は「いらんいらん・レジ袋（買い物の際にレジ袋を減らした枚数を報告する）」を予定しています。今すぐ下のアドレスにアクセスして、アクションを起こしてみよう!

<http://www.ecoclub.go.jp>



「電子マニフェスト制度」を知っていますか?

たびたび、ニュースなどで問題になっている、産業廃棄物の不法投棄。この問題を未然に防ぐため、廃棄物処理法では、産業廃棄物を出す際に「マニフェスト」を使用することが義務づけられています。マニフェスト制度とは、産業廃棄物を出す排出事業者が、収集運搬業者や処分業者に産業廃棄物の処理を委託する際、最終処分するまで適正に処理されたかを把握・管理する仕組みのこと。紙マニフェストと電子マニフェストの2種があり、環境省では、電子マニフェストの普及促進に取り組んでいます。電子マニフェストには、パソコンなどを活用して事務処理が簡単にでき、情報処理センターが一元的に情報を管理するため、データの透明性が確保されるといったメリットがあります。また、情報処理センターが排出事業者に代わって行政へのマニフェストに関する報告を行ってくれます。よりスピーディに、的確に産業廃棄物を処理することができる電子マニフェストの詳細については、HP <http://www.jwnet.or.jp/jwnet> をご覧ください。